

# 第6学年 特別の教科 道徳 学習指導案

## 1 主題構成表

主題名 働く人の思い

資料名 世界がおどろく七分間清掃 (出典 光文書院)

|   |  |   |
|---|--|---|
| <p>■内容項目 C—(14) 勤労公共の精神<br/>働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうと共に、その意義を理解し、公共のために役立つことをすること。</p>  | <p>■価値の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人は、支え合わないと生きていけない。また、所属する社会のために力を尽くして貢献することによって社会から認められる。</li> <li>それが「生きがい」になり、よりよい自分であろう、よりよい社会をつくらうとする行動につながっていく。</li> <li>このような心を支えているもの一つは、相手からの見返りや評価を求めない心である。</li> <li>それは、物質的満足や評価要求などの欲望を超えた、人間ならだれしもがもっている心であり、これこそが社会奉仕の心である。</li> <li>自分が相手のために何かできるのではないかと考えて行う活動が、結果として相手を喜ばせ、また、自分の生きる幅を広げるのである。</li> </ul> | <p>■資料の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本教材は、新幹線の清掃員の仕事ぶりを通して、働くことの意義について考え、その実践を促すことのできる教材である。</li> <li>清掃員の仕事への思いを考えたり他者(ジョニー)の視点から、その仕事ぶりのすばらしさを考えたりすることで、働く喜びの源泉や、工夫して働くことのすばらしさを考えさせたい。</li> <li>また、外国人からも賞賛される「時間に正確で創意工夫された仕事ぶり」を通して、日本人のもつ勤勉性や、仕事への真摯さも感じさせたい。</li> <li>高学年の児童にとっての働くことの意義として「自分の属する集団や社会の目的に寄与し、そのことに喜びを感じるという社会的意義」と「自分が人間的に成長することに喜びを感じるという人間的意義」の大きく二つが考えられる。</li> <li>その仕事の意義を考えることを通して「今の自分に何ができるか」「自分にできること」を考えさせたい。</li> </ul> |
| <p>■内容項目から見た児童の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達は6年生として学校のいろいろな場面で公共のために働く機会がある。</li> <li>しかし、6年生としての自覚をもって主体的に活動できている子と、なんとなく活動している子との意識の差が見られる。</li> <li>運動会では自分の担当した係の仕事をやり切り達成感を味わった子も多かった。</li> </ul> <p>■要因</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全校のためになにかしたい、役立ちたいという思いはあるが、どのようにそれを表現するか分からなかったり、勇気がなく躊躇したりする傾向がある。</li> <li>活動を「やればいい」と単純に捉え、その活動の意義を考えていない。</li> </ul> |  |   |
| <p>■ねらい<br/>働くことのよさや大切さを考えることを通して、自らも公共のために役立とうとする気持ちをもつことができる。</p>   |  |   |
| <p>■展開の構想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちがこれまで、いろいろな場面で学校や学級のために働いてきたことをふり返り、どんな気持ちで働いていたかを考える。</li> <li>資料を読み、新幹線の清掃員の仕事ぶりを通して働くことの意義を、グループで話し合いながら考える。</li> <li>新幹線清掃の「世界にじまん」ができるところは、どんなところかを考えさせる。</li> <li>これまでの自分の姿をふり返り、今日学んだことを活かして、どのように今後の活動に取り組んでいきたいかを書く。</li> <li>卒業アルバムでお世話になっている写真屋さん、どんな気持ちで働いているかを聞く。</li> </ul>  | <p>■基本発問 (◎中心発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○これまで、6年生としてどんな仕事にどんな気持ちで取り組んできましたか。</li> <li>○新幹線の清掃員さんは、どんな気持ちでおじぎをしているのでしょうか。</li> <li>◎清掃員さんたちは、どんな思いで仕事をしているのでしょうか。</li> <li>○「世界にじまん」できる場所とは、どんなところでしょうか。</li> </ul>   |   |

2 学習指導過程

|    | 基本発問と予想される児童の反応   | 指導・援助   |
|----|---|---|
| 導入 | <p>1. 価値への方向付けを行う。<br/>これまでの自分の仕事への取り組みを振り返る。</p> <p>○ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">6年生としてどんな仕事に、どんな気持ちで取り組んできましたか。</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝掃除。6年生だからやらなければならない。</li> <li>・なかよし班の班長。みんなが楽しくすごせるように。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前にワークシートに記入させておく。</li> <li>・働くことに対する意識を考えさせることで、価値への方向付けをする。</li> <li>・ゲストティーチャーにも簡単に仕事に対する思いを聞く。</li> </ul>   |
|    | <p>2. 資料を読み、働くことの意義について考え、交流する。</p> <p>○ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">新幹線の清掃員さんたちは、どんな気持ちでおじぎをしているのでしょうか。</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいになったので、安心して乗車して下さい。</li> <li>・きれいな新幹線で旅を楽しんで下さい。</li> </ul> <p>◎ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">清掃員さんたちは、どんな思いで仕事をしているのでしょうか</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お客様によるこんでほしい。</li> <li>・決められた時刻までに、必ず終わらせる。</li> <li>・新幹線に乗ってよかったと思ってほしい。</li> <li>・新幹線に乗ったことがよい思い出になってほしい。</li> </ul> <p>○ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「世界に自慢」ができる場所は、どんなところでしょうか。</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・決められたことを秒単位で進めているところ。</li> <li>・常によい方法はないかと工夫しながら仕事をしているところ。</li> <li>・すべて、お客様のために、ということを考えて取り組んでいるところ。</li> <li>・プライドをもって仕事をしているところ。</li> </ul> <p style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">自分の仕事に、相手のことを考えて、プライドをもって働く。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃員たちの行為は、自分たちの思いが表れているものであることを考えさせる。</li> <li>・グループで話し合いをする。</li> <li>・清掃員たちの仕事ぶりから、客を第一に考えた仕事に対する思いを考えさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>☆深めの発問<br/>自分たちの仕事に対する思いと、清掃員たちの思いは同じだろうか</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>働く意義や、社会に奉仕する喜びを理解することができたか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジョニーが清掃員たちに対して抱いた、感動の気持ちに共感させる。</li> <li>・それぞれの考えを受容しながら、自分たちの仕事に対する気持ちに、立ち返らせる。</li> </ul> |
| 展開 |   |   |
| 終末 | <p>3. ゲストティーチャーの話聞く。<br/>カメラマンとして、お客さんに喜んでもらえるように工夫しながら、頑張っている。お客さんに喜んでもらえる、やりがいを感じる。</p> <p>4. 今日の学習から考えたことをまとめ、交流する。</p> <p>○ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">残りの期間で、あなたはどんな気持ちで6年生としての仕事に取り組んで行きたいですか。</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校のみんなに喜んでもらえるように、朝掃除にいていねいに取り組みたい。</li> <li>・下学年にあこがれてもらえるように、やりがいをもって委員会の仕事に取り組んでいきたい。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事に対する真摯な思いを語っていただき「働くことの意義」についての考えを深める。</li> <li>・ワークシートへ記述する。</li> <li>・書くことで理解を確かにし、実践への意欲や態度につなげる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>書く時の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだこと</li> <li>・これまでの自分</li> <li>・これからの自分</li> </ul> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>働くことの意義について理解し、自分も実践しようとしている。</p> </div>  |

### 3 道徳の時間（本時）と他の教育活動との関連

<場の内容とねらい>

<日常活動>

<児童の意識>

<指導・援助>

**学級活動**

- ・毎日の生活の中で、学級目標を意識して行動する。
- ・学級代表や班長が中心となって、自分たちの生活の弱い部分を、少しでも高めていけるような働きかけをしたり、取組を工夫したりする。

**委員会活動**

- ・各委員会の中心となって、「きもちのよい」中小の実現に向けて、自分の役割に責任をもって取り組んだり、活動を工夫して、全校に呼びかけたりする。

**道徳の時間**  
「世界がおどろく 七分間清掃」  
内容項目C-（14）

- ・働くことよさや大切さを知るとともに、自らも公共のために役立とうとする気持ちをもつ。

**学校行事**

- ・運動会で、各委員会ごとに割り振られた仕事に、責任をもって取り組んで、運動会を成功させる。

- ・分団  
安全に登下校できるように気を付けたり、あいさつの手本となったりするように心掛ける。

**朝掃除**

- ・代々の6年生から引き継いだ活動であることを意識して、きれいな学校になるようにいねいに取り組む。

- ・係活動  
学級生活がよりよくなるように、自分の選んだ仕事に責任をもって取り組む。

- ・掃除  
全校の手本となるよう、自分の分担に時間いっぱいはいねいに取り組む。

**家庭との連携**

- ・学級通信に、6年生としての意識をもって取り組む姿を紹介したり、懇談の場で直接伝えたりして、意識を高める。

- ・全校から信頼される6年生になりたい。
- ・自分たちの姿をもっと高めて、自信をもって卒業したい。

- ・これまでの6年生のように、委員会活動を引っ張っていきたい。
- ・4, 5年生の手本になれるようにがんばりたい。

- ・今まで、ただやればよいと思って仕事をしてきたな。
- ・仕事をするときには、相手のことを考えることが大切なんだな。
- ・卒業まで、6年生という意識をしっかりと持ち、仕事に取り組んでいきたい。

- ・小学校最後の運動会だから全力で取り組みよう。
- ・自分たちの行動で下学年の手本となろう。
- ・自分の仕事をやり切りたい。

- ・朝の会や帰りの会で仲間のよいところを見つけ、認める場を設定する。
- ・学級のみんで頑張っていることを学級目標と照らし合わせて、価値づける。

- ・活動の手順や目的を明確にして、児童が自主的に活動できる環境を整える。
- ・仲間との関わりをふやし、お互いの思いに触れながら活動できるようにする。

- ・自分の体験を交えて話せるように、同じような経験がないか、確認しながら進めていく。
- ・どの子も自分の言葉で思いが伝えられるように、話す活動だけでなく、書く活動も取り入れる。

- ・計画の段階で、仕事の見通しを持たせる。
- ・その仕事の意義を伝える。
- ・事後に頑張っていた姿を評価し、次に活かせるように促す。